

大阪府感染症情報センターでは国立健康危機管理研究機構が配信している梅毒の国内発生状況分析情報 (<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/article/syphilis/010/index.html>) を参考に、大阪府内における梅毒症例の動向について四半期毎の推移をまとめたものを 2022 年第 1 四半期より四半期毎に配信させていただきます

大阪府内で感染症発生動向調査によって届け出られた梅毒の概要

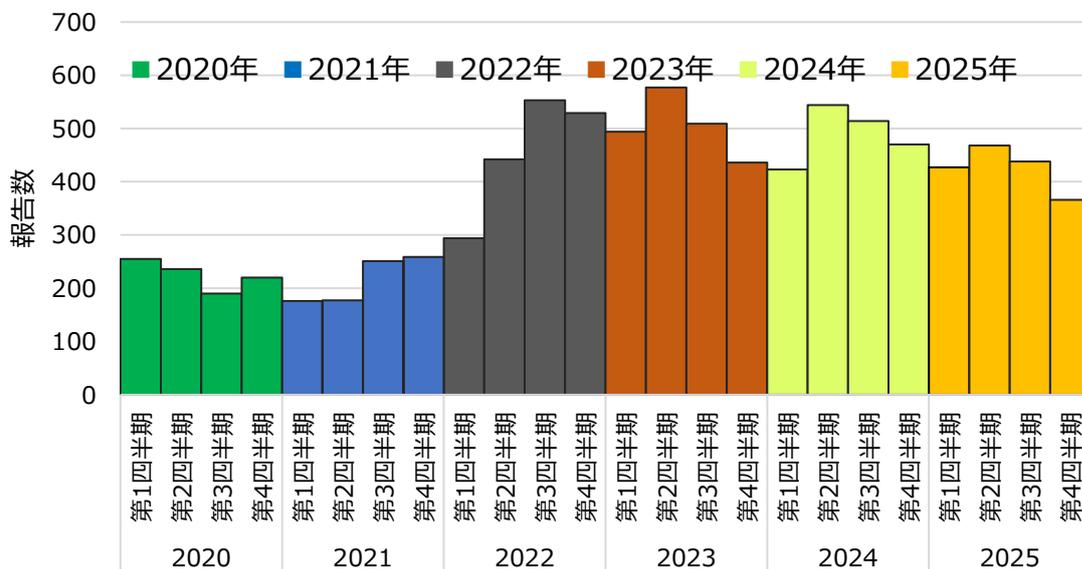
2026 年 1 月 16 日現在

2024 年第 4 四半期から 2025 年第 4 四半期は、以下の週に該当する

- ・ 2024 年第 4 四半期：第 40 週~52 週（2024 年 9 月 30 日~2024 年 12 月 29 日）
- ・ 2025 年第 1 四半期：第 1 週~13 週（2024 年 12 月 30 日~2025 年 3 月 30 日）
- ・ 2025 年第 2 四半期：第 14 週~26 週（2025 年 3 月 31 日~2025 年 6 月 29 日）
- ・ 2025 年第 3 四半期：第 27 週~39 週（2025 年 6 月 30 日~2025 年 9 月 28 日）
- ・ 2025 年第 4 四半期：第 40 週~52 週（2025 年 9 月 29 日~2025 年 12 月 28 日）

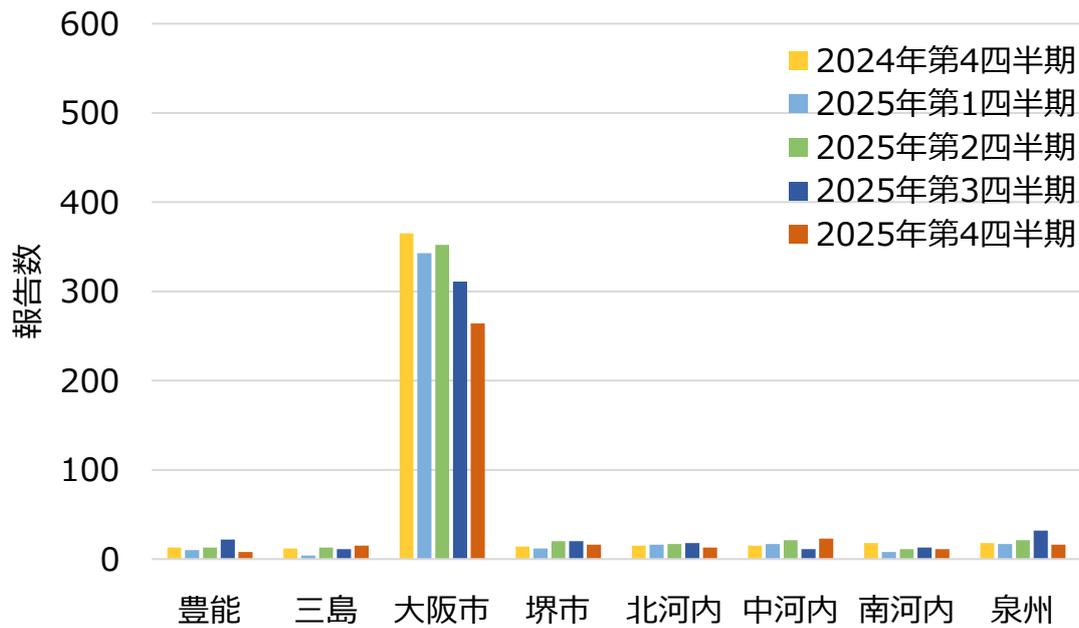
注) 2025 年第 52 週までに診断されていても 2026 年 1 月 16 日以降に届け出のあった報告は含まない。

図 1 大阪府内における梅毒報告数



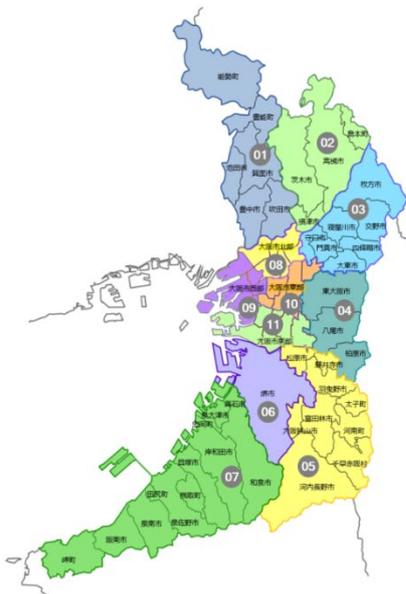
- 2025 年第 4 四半期は 366 例で、2025 年 3 半期と比較して報告数が 16%減少した。昨年の同一四半期の報告数からは 22%の減少である。（遅れて報告される場合があることから、特に直近の報告数は今後変動する可能性がある。）

図2 ブロック別報告数



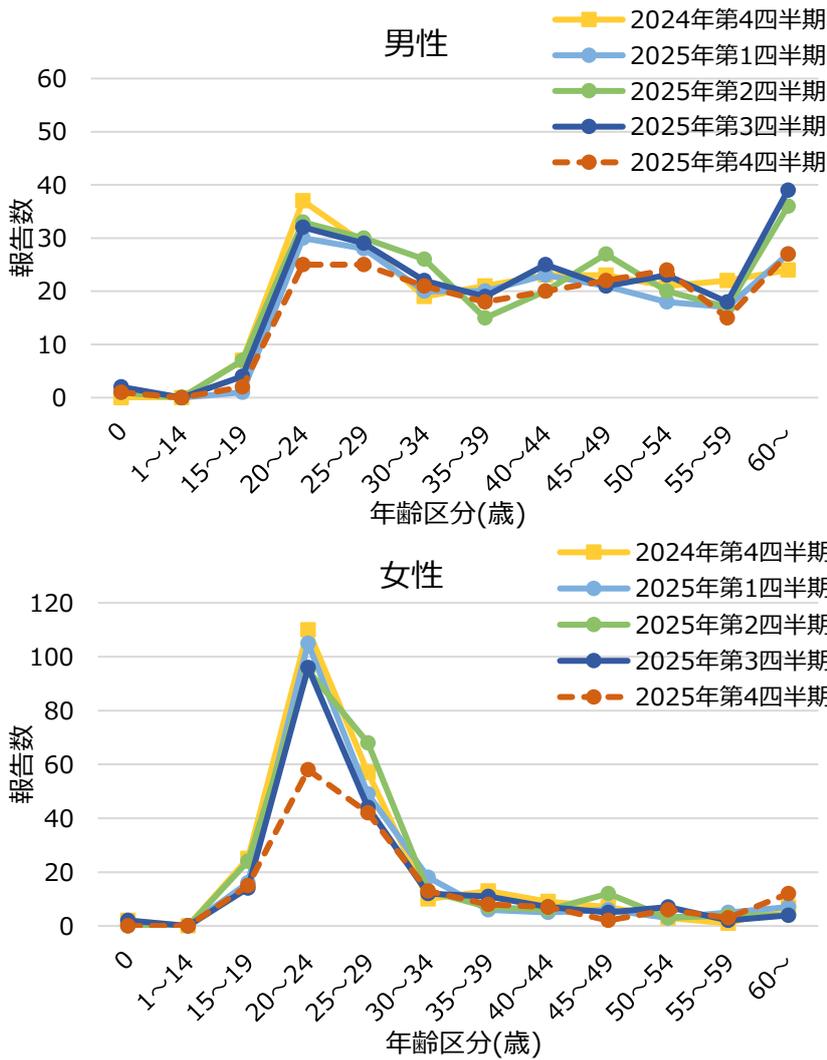
- 四半期毎の報告数は全ての期間において大阪市医療圏で最も多い。2025年第3四半期と比較し2025年第4四半期は2ブロックで報告数が増加した。

【参考】感染症発生動向調査ブロック分け (<http://www.iph.pref.osaka.jp/infection/block1.html>)



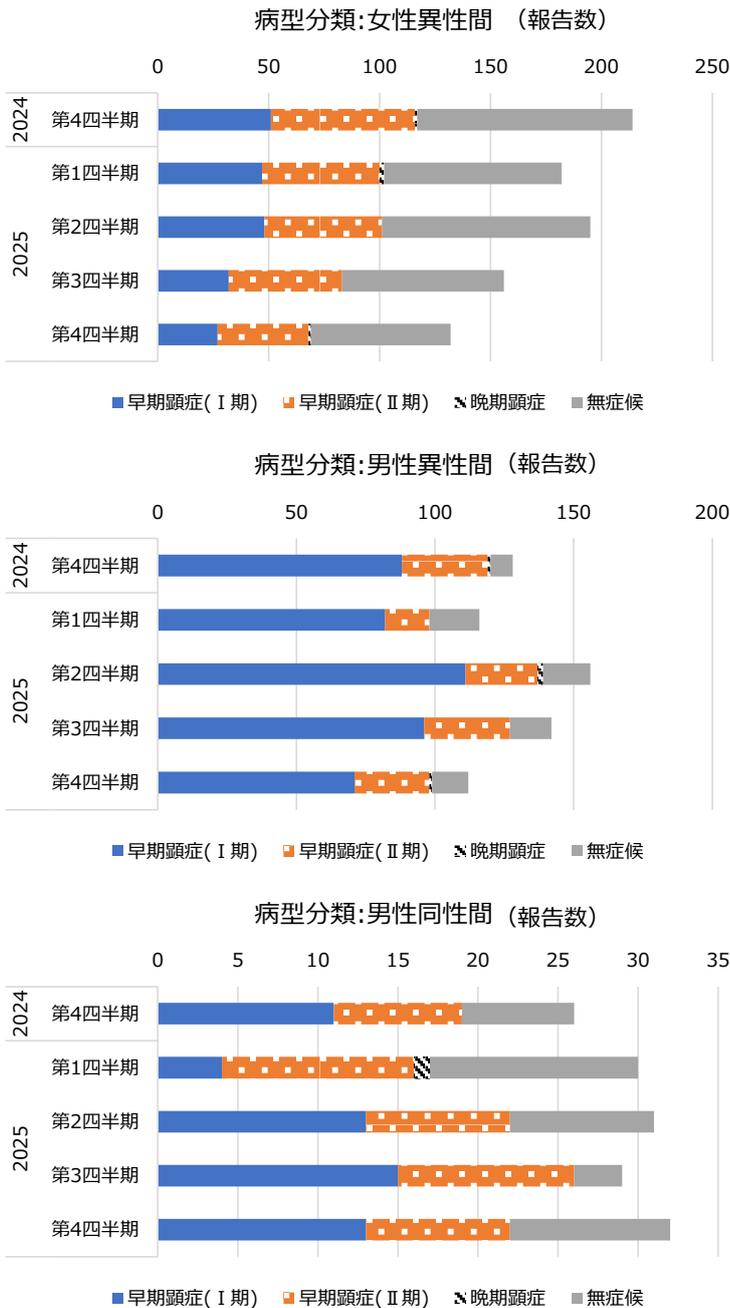
ブロック	市町村区分：所管区域	所管保健所
01 豊能	豊中市	豊中市保健所
	池田市、箕面市、能勢町、豊能町	池田保健所
	吹田市	吹田市保健所
02 三島	高槻市	高槻市保健所
	茨木市、摂津市、島本町	茨木保健所
03 北河内	枚方市	枚方市保健所
	寝屋川市	寝屋川市保健所
	守口市、門真市	守口保健所
04 中河内	四條畷市、大東市、交野市	四條畷保健所
	東大阪市	東大阪市保健所
05 南河内	八尾市	八尾市保健所
	柏原市	藤井寺保健所
06 堺市	藤井寺市、松原市、羽曳野市	藤井寺保健所
	富田林市、大阪狭山市、河内長野市、河南町、太子町、千早赤阪村	富田林保健所
07 泉州	和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町	和泉保健所
	岸和田市、貝塚市	岸和田保健所
	泉佐野市、泉南市、阪南市、田尻町、熊取町、岬町	泉佐野保健所
08 大阪市 北部	北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区	大阪市保健所
09 大阪市 西部	福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区	
10 大阪市 東部	中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区	
11 大阪市 南部	阿倍野区、住吉区、住之江区、東住吉区、平野区、西成区	

図3 性別年齢分布



- 2025年第4四半期の男性の報告数は200例で、2025年第3四半期の234例と比較し15%減少した。また、2024年同一四半期の226例と比較し8%減少した。2025年第4四半期の20歳代男性の報告数は50例で、2024年同一四半期の66例と比較し24%減少した。20歳代の割合は男性全体の25%を占めた。
- 2025年第4四半期の女性の報告数は166例で、2025年第3四半期の204例と比較し19%減少した。また、2024年同一四半期の244例と比較し32%減少した。引き続き20~24歳で報告数が最も多かった。20歳代の割合は女性全体の60%を占めた。また10歳代後半の割合は女性全体の9%を占めている。
- 全期間を通じ20~40歳代の男性および20歳代の女性で特に報告数が多いことから、後述する先天梅毒の発生を防ぐ観点から、妊娠の可能性のある者のうち感染リスクがある者や、妊娠中、または、妊娠の可能性のある者のパートナーに対する、必要に応じた積極的な検査実施と啓発が重要であると考えられた。
- 男女ともに20歳代の報告数が多いことから、10歳代の若者が性感染症に関する知識を得る予防啓発の機会を増やすことが、重要な対策の一つになると考えられた。

図4 性的接触歴別、病型の内訳



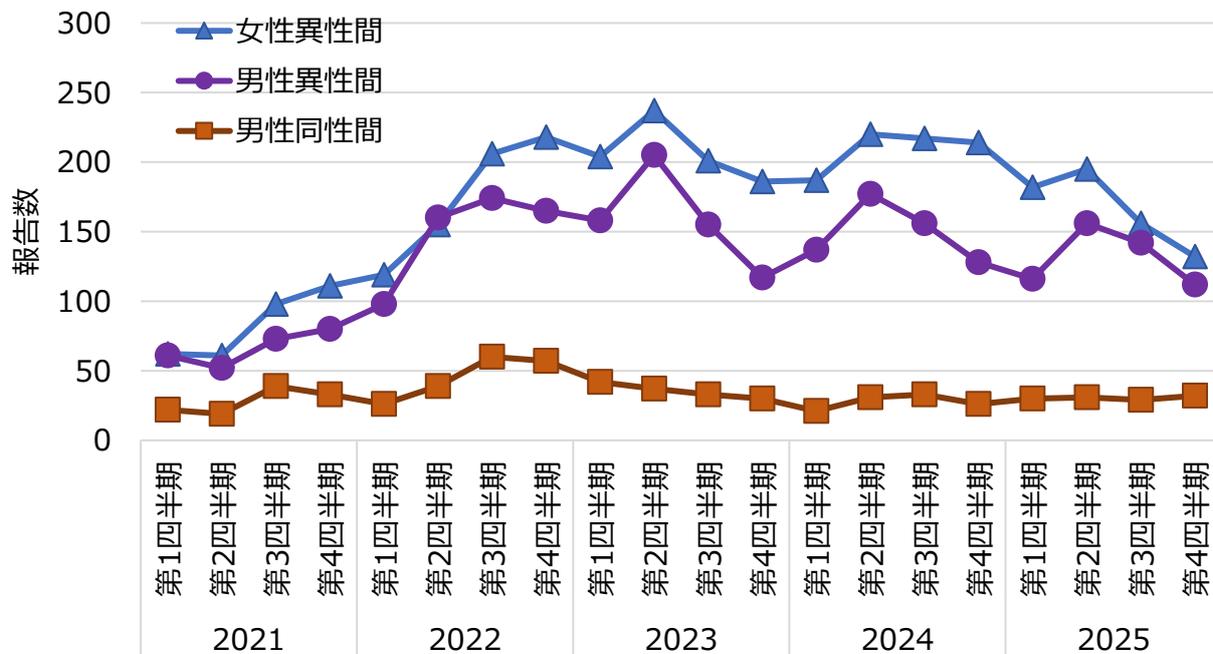
- 2025年第4四半期は無症候での届出の占める割合が女性異性間で48% (63例)、男性異性間で12% (13例)、男性同性間で31% (10例)であった。
- 2025年第4四半期は早期顕症(I期)の届出の占める割合が女性異性間で20% (27例)、男性異性間で63% (71例)、男性同性間で41% (13例)であった。
- 2025年第4四半期は早期顕症(II期)の届出の占める割合が女性異性間で31% (41例)、男性異性間で24% (27例)、男性同性間で28% (9例)であった。
- 全期間を通じて女性異性間は無症候での届出の割合が高く、一方で男性異性間は無症候での届出の割合が低い(2021年以降の届出に占める無症候の割合;女性異性間47%、男性異性間11%)。女

性は自発的検査あるいは医師の検査勧奨や妊婦健診など、検診目的の検査で感染が判明している可能性が考えられ、男性は、梅毒の症状を自認した患者の受診によつての診断が大部分を占め、自発的な検診による無症候性梅毒の検出・診断が少なくなっているものと考えられた。

- 男性同性間は男性異性間と比較し無症候で届出される割合が高いことから（2021年以降の届出に占める無症候の割合：男性同性間 32%）、受検意識の高さや検診目的の検査による判明が多い可能性がある。
- 梅毒の流行を抑えるには、予防啓発はもちろんのことだが、それに加えて自発的な梅毒検査受検率のさらなる向上が必要である。特に感染の可能性の高い、異性間性的接触機会が多い者に対し、働きながらでも受検しやすい梅毒検査環境を提供するなど、積極的な受検を促し、無症候の感染者の診断と治療による介入を行うことが重要であると考えられた。

注) 男性同性間・異性間両方に記載のある症例は重複して含めている

図5 性的接触歴別報告数推移



- 2025年第4四半期と2025年第3四半期を比較すると、女性の異性間性的接触歴のある報告数は15%減少、男性の異性間性的接触歴のある報告数は21%減少、同性間性的接触歴のある報告例は10%増加した。

注) 男性同性間・異性間両方に記載のある症例は重複して含めている

表1 直近6か月以内の性別性風俗産業の従事歴および利用歴

男性		2024年第4四半期	2025年第1四半期	2025年第2四半期	2025年第3四半期	2025年第4四半期
従事歴	あり	14 6%	7 3%	10 4%	8 3%	7 4%
	なし	131 58%	113 55%	136 59%	125 53%	116 58%
	不明	52 23%	67 33%	62 27%	59 25%	47 24%
	空欄	29 13%	19 9%	24 10%	42 18%	30 15%
	計	226	206	232	234	200
男性		2024年第4四半期	2025年第1四半期	2025年第2四半期	2025年第3四半期	2025年第4四半期
利用歴	あり	70 31%	69 33%	93 40%	86 37%	66 33%
	なし	58 26%	55 27%	54 23%	50 21%	59 30%
	不明	70 31%	65 32%	62 27%	59 25%	44 22%
	空欄	28 12%	17 8%	23 10%	39 17%	31 16%
	計	226	206	232	234	200

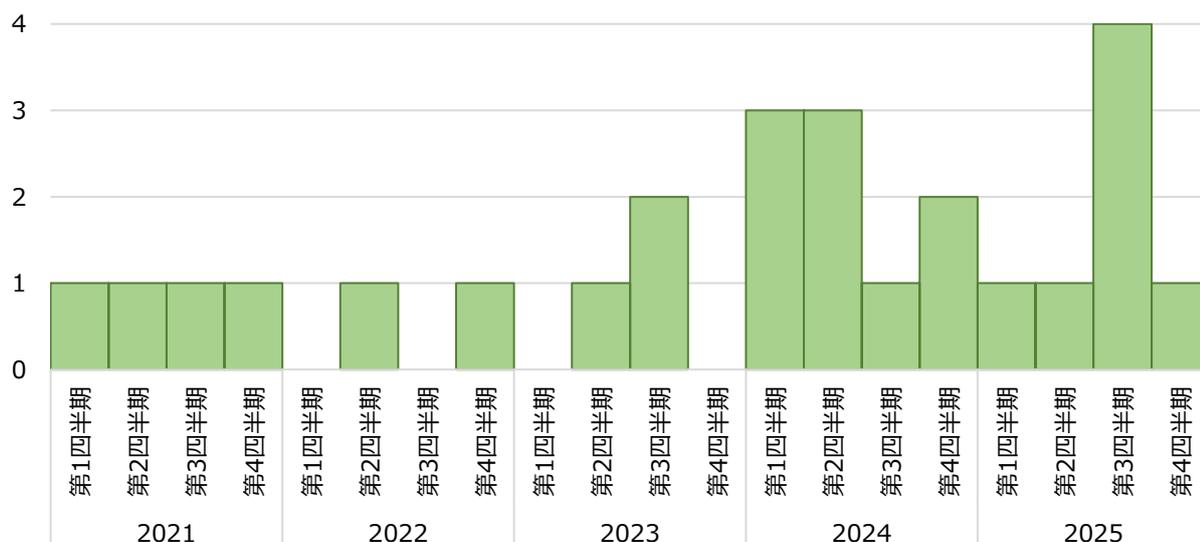
女性		2024年第4四半期	2025年第1四半期	2025年第2四半期	2025年第3四半期	2025年第4四半期
従事歴	あり	133 55%	118 54%	126 53%	95 47%	74 45%
	なし	50 20%	41 19%	46 19%	44 22%	42 25%
	不明	46 19%	39 18%	47 20%	48 24%	27 16%
	空欄	15 6%	22 10%	17 7%	17 8%	23 14%
	計	244	220	236	204	166
女性		2024年第4四半期	2025年第1四半期	2025年第2四半期	2025年第3四半期	2025年第4四半期
利用歴	あり	4 2%	2 1%	0 0%	3 1%	0 0%
	なし	105 43%	99 45%	107 45%	85 42%	80 48%
	不明	118 48%	94 43%	106 45%	98 48%	60 36%
	空欄	17 7%	25 11%	23 10%	18 9%	26 16%
	計	244	220	236	204	166

* 空欄：あり、なし、不明いずれにも記載がない場合

割合(%)は小数点第一位を四捨五入して記載

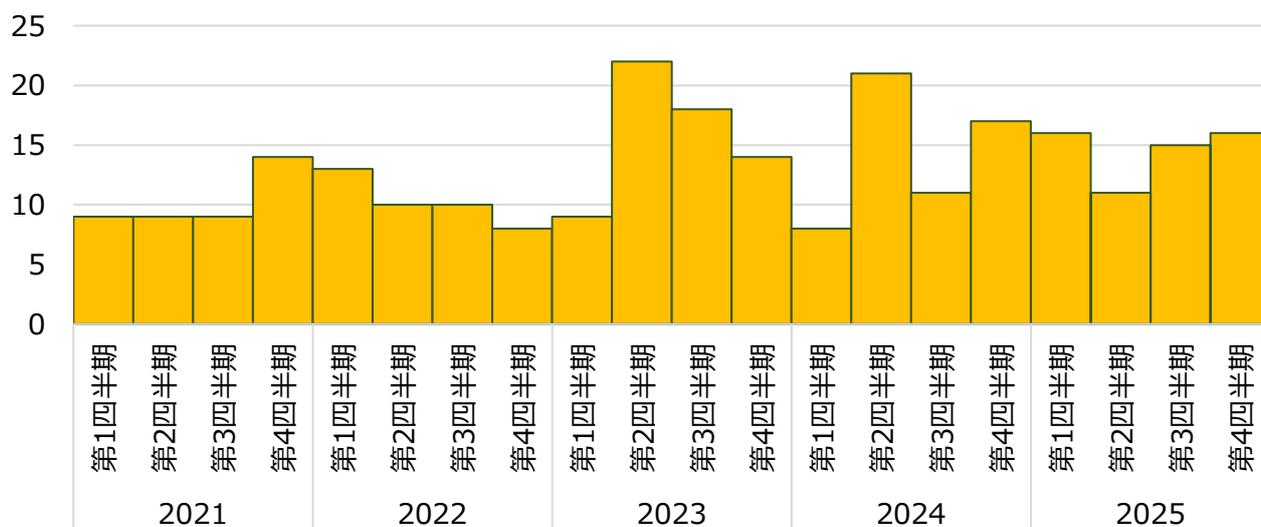
- 男性のうち性風俗産業利用歴のある報告例は2024年第4四半期以降31%~40%で推移している。
- 女性のうち性風俗産業従事歴のある報告例は2024年第4四半期以降45~55%で推移している。
- 男性のうち性風俗産業利用歴が不明の報告例が20~30%台、女性のうち性風俗産業従事歴が不明の報告例が10~20%台で推移している。梅毒に対し有効な対策を講ずるうえで、精度の高い疫学情報が不可欠であり、届出時の不明記載の割合を少しでも下げていくことが重要であると考えます。

図6 先天梅毒の報告状況



- 2025年第4四半期に病型が先天梅毒として報告された届出例は1例であった。2025年の累計は7例となった。2024年の累計は9例と現行の集計方法となった1999年以降最多の報告数となった。

図7 妊娠例の報告状況



- 2025年第4四半期に報告された梅毒届出例のうち、妊娠例は16例であり、2025年の累計は58例となった。2024年の累計は57例であった。

参考

大阪府感染症情報センター

大阪府内で報告された梅毒届出症例における妊娠例と先天梅毒の報告状況

<http://www.iph.pref.osaka.jp/zensu/20220623152435.html>